

吉田 知之 (Tomoyuki Yoshida)

[原著]

1. Kinoshita, K., Komatsu, T., Nishide, K., Hata, Y., Hisajima, N., Takahashi, H., Kimoto, K., Aonuma, K., Tsushima, E., Tabata, T., Yoshida, T., Mori, H., Nishida, K., Yamaguchi, Y., Ichida, F., Fukurotani, K., Inoue, H. & Nishida, N*. A590T mutation in KCNQ1 C-terminal helix D decreases IKs channel trafficking and function but not Yotiao interaction. *J. Mol. Cell. Cardiol.* **72**, 273-280 (2014).
doi: 10.1016/j.yjmcc.2014.03.019.
2. Yasumura, M., Yoshida, T., Yamazaki, M., Abe, M., Natsume, R., Kanno, K., Uemura, T., Takao, K., Sakimura, K., Kikusui, T., Miyakawa, T. & Mishina, M*. IL1RAPL1 knockout mice show spine density decrease, learning deficiency, hyperactivity and reduced anxiety-like behaviours. *Sci. Rep.* **4**, 6613 (2014).
doi: 10.1038/srep06613.
3. Tanaka-Hayashi, A., Hayashi, S., Inoue, R., Ito, T., Konno, K., Yoshida, T., Watanabe, M., Yoshimura, T. & Mori, H*. Is D-aspartate produced by glutamic oxaloacetic transaminase-1 like 1 (Got111): a putative aspartate racemase? *Amino Acids.* **47**, 79-86 (2015).
doi: 10.1007/s00726-014-1847-3.
4. Yamagata, A., Yoshida, T*, Sato, Y., Goto-Ito, S., Uemura, T., Maeda, A., Shiroshima, T., Iwasawa-Okamoto, S., Mori, H., Mishina, M. & Fukai, S*. Mechanisms of splicing-dependent *trans*-synaptic adhesion by PTPδ-IL1RAPL1/IL-1RacP for synaptic differentiation. *Nat. Commun.* in press (2015).
5. Yamagata, A., Sato, Y., Goto-Ito, S., Uemura, T., Maeda, A., Shiroshima, T., Yoshida, T*. & Fukai, S*. Structure of Slitrk2-PTPδ complex reveals mechanisms for splicing-dependent *trans*-synaptic adhesion. *Sci. Rep.* in press (2015).

[著書・総説]

1. 深井周也, 植村健, 吉田知之. 実験医学増刊 構造生命科学で何がわかるのか, 何ができるのか. Vol.32; 羊土社; 2014. 「シナプス形成を誘導する膜受容体の機能と構

造」： p92-97.

[国際学会]

該当なし

[国内学会]

1. 吉田知之, 森寿, 三品昌美. IL-1 受容体共通サブユニット IL-1RAcP は中枢シナプス形成を担うシナプスオーガナイザーとして機能する; 第 32 回日本生化学会北陸支部大会; 2014. 5. 24; 富山.
2. 島田忠之, 吉田知之, 山形要人. Neurtin は FGF シグナルを介して、神経活動依存的な軸索分枝形成を誘導する; 第 37 回日本神経科学大会; 2014. 9. 11; 横浜.
3. 林-田中亜由美, 井上蘭, 吉田知之, 林修平, 伊藤智和, 吉村徹, 森寿. Got111 ノックアウトマウスの解析; 第 87 回日本生化学会; 2014. 10. 18; 京都.
4. 宗実悠佳, 若林朋子, 吉田知之, 岩坪威. アルツハイマー病脳老人斑構成成分 CLAC-P の中枢神経系における生理機能の解明; 第 33 回日本認知症学会; 2014. 11. 30; 横浜.

[招待講演・セミナー]

1. 吉田知之. インターロイキン-1 受容体ファミリー分子群による中枢シナプス形成の調節; 平成 26 年度生理学研究所研究会「グリア細胞機能から迫る脳機能解明」; 2014. 10. 24; 岡崎.
2. 吉田知之, 城島知子, 山崎真弥, 阿部学, 山形敦史, 深井周也, 森寿, 崎村建司, 岩倉洋一郎, 三品昌美. インターロイキン-1 受容体ファミリータンパク質による中枢シナプス形成の調節; 第 37 回日本分子生物学会年会 ワークショップ; 2014. 11. 26; 横浜.

[研究助成金]

平成 23-26 年度 科学技術振興機構戦略的創造研究推進事業・さきがけ 「中枢シナプスオーガナイザーによる標的認識と特異的シナプス形成の調節機構の解明」 課題番号 4145 研究代表者 吉田知之

平成 25-26 年度 文部科学省科学研究費助成金 新学術領域研究 「シナプスオーガナイ

ザーの機能破綻から神経発達障害の発症に至るシナプス病態の解明」 課題番号
25110708 研究代表者 吉田知之

平成 25-28 年度 日本学術振興会科学研究費補助金 基盤研究(B) 「シナプス前終末構築
の分子機構」 課題番号 25293057 研究代表者 吉田知之

平成 26-27 年度 日本学術振興会科学研究費補助金 挑戦的萌芽研究 「シナプスオーガ
ナイゼースプライスバリエントの時空間的発現様式の解明」 課題番号 26640038 研
究代表者 吉田知之

平成 26 年度 ほくぎん若手研究助成 「インターロイキン-1 による神経細胞間シナプス
形成の調節機構の解明」 研究代表者 吉田知之

【その他】

新聞・マスコミ発表

該当なし

【特許出願・取得状況】

該当なし